



家庭科は、日々の生活の科目であり、自立した生活をしていくためになくってはならない教科です。そこで、家庭科の指導で大切にしていることや授業で使用している視覚に配慮したグッズの紹介をします。

〈大切にしていること〉

①実践的・体験的な活動



見えない、見えづらいことが経験不足にならないように、どうしたらできるか考え、視覚に配慮した道具等を取り入れながら、見え方に応じた方法を工夫し、調理実習やミシンでの製作活動等を行っています。

②安全で確実な動作の獲得



調理や裁縫、ミシン、アイロン等実技を伴う活動では、危険が想定されます。そのため、初めて行う活動や動作は正確な方法で、基礎を身に付けて欲しいと考え、一つ一つ確認しながら丁寧に進めています。また、見えにくさを補うための、触覚や聴覚等を使った判断方法や視覚に配慮した道具の提案をしています。例えば、調理では、食材が見やすいように「白黒反転まな板」、裁縫では、針と糸をセットすると簡単に糸通しができる道具（「エスコート」）があります（写真①）。また、針穴の先端にある小さな隙間に糸をセットし、糸を押し付けることにより、穴に糸を通すことができる縫い針もあります（写真②）。

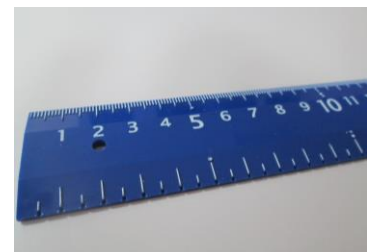
長さを計るときは、触読用のものさしに、弱視の人が見やすいように、紺地に白い数字や目盛りが印字されたものさしを使っています（写真③）。



写真①簡単糸通し



写真②セルフ針セット



写真③触読用ものさし

ミシン縫いでは、布をまっすぐ送るための手がかりとなるように、ミシン台にビニールテープを貼っています。ビニールテープを重ねて厚みを出すことで、手で触れて判断することができます（写真④）。

一人一人に合った安全に確実にできる方法を一緒に考えながら取り組んでいます。



写真④手がかりの活用

日本点字図書館
「わくわく用具ショップ」を検索すると、視覚に配慮した様々な便利グッズが載っています。

<色を教えてくれる便利グッズ>

～ カラートーク～

見えない、見えづらい人にとって、毎日の洋服選びは色や柄が分からず大変だと聞きます。このカラートークは、衣服など、色を知りたいものの表面に機器をあてると、その色を音声で伝えてくれます。

モード切替ができ、「あか」と単色で答える場合と、「濃いみどり」と修飾して答える場合のどちらかを選択できます。



～ いろキャッチペン～

おもちゃのタカラトミーの商品です。目の不自由な方もいっしょに楽しめる「共遊玩具」部門で、2015年日本おもちゃ大賞を受賞しています。「たべものいっぱい編」と「いきものいっぱい編」があり、いろキャッチセンサーを色を知りたいものに押し当てると、読み取った色を「これはあかいろ、りんごのいろだよ」と音声で教えてくれます。

機械が判断する色ですので、見た目との色の違いや様々な色が入った柄の認識が不十分な場合もあります。



 目の不自由な方もいっしょに楽しめる共遊玩具です。